挑戦者たちへ　（日野台進路便り 2021 年度③）　2021/7/13

進路指導部　阿部

2021 年度入試（現大学１年）から大学入試共通テスト（以下共通テスト）がスタートています。国語と数学で記述式問題が導入される予定でしたが、全教科全科目全問マーク式で実施されました。記述式問題の実施は延期され今後については検討中でしたが、先日、現中３生が受験する共通テストでも実施しないことが決定されました。

共通テストは知識の理解の質を問う問題や思考力、判断力、表現力を発揮して解くことが求められる問題を重視して作問されるようになっています。ただし、一昨年までのセンター試験でもそのような問題が出題されていなかったわけではないので、その継続の中でより質を高めたものになると考えてください。センター試験では平均点を６０点を目安に作問されていましたが、共通テストでは平均点５０点を目安に作問されるとされていました。しかし、１年目の共通テストの平均点は６０点前後で、難化しませんでした。２年目は難化が予想されていますが、どのくらい難化するのかはわかりません。難しくなるととらえて準備していきましょう。文章・図・資料などの複数の情報から必要な情報を読み取る力やそれを比較したり組み合わせたりする問題で手こずる受験生が出てくると思われます。基本的には教科書の範囲（資料等は教科書で扱われないものも扱う場合がある）からの出題ですから授業を完全に理解していきましょう。なお、センター試験の過去問を学習することは有効な学習法のひとつと言えます。新しいテストではありますが、基礎基本を身につけることが出来ればあまり心配する必要はありません（教科科目によって若干の違いがあるので、それぞれの先生の指示に従ってください）。

①数学Ｉ、数学ＩＡの試験時間は１０分延長

数学Ｉ、数学ＩＡで出題予定だった記述式問題の導入は見送られましたが、数学的な問題過程（数学を利用して解決の見通しを立てることや、考察結果を活用する問題）が重視され「考える時間」を考慮し試験時間が１０分延長、７０分になりました。傾向が変わったことに加え、昨年度よりページ数が 1.5 倍に増えましたが、計算量の減少と選択問題の増加で数ＩＡの平均点は 51.9 から 57.7 へと上がりました。

数Ⅱ・数ⅡＢの試験時間は６０分のままですが文章量は増えました。思考力を問う問題が減り、多肢選択式問題（当てはまるものを選択肢から選ぶ問題）が大幅に増加したことの影響もあり数ⅡＢの平均点が 39.5 から 59.9 へと大幅に上がりました。昨年は平均点が高かったですが、共通テストになり文章量が増えたことで、素早い計算力や処理力がないと対応できない年もあるのだと思います。ちなみに一般に数ＩＡの平均点は数ⅡＢの平均点より高いことが多いのですが、去年は逆でした（５年に一度くらい逆転が起きてきました）。問題の出題傾向がこのまま続くと数ⅡＢの平均点の方が高い年が増えるのだと思います。ですから日野台生は文系の人もしっかり数ⅡＢまで学習し、数ＩＡ・数ⅡＢとも受験していくことを勧めます。

②国語で「実用的な文章」？が出題

国語も記述式問題が見送られました。近代以降の文章（現代文）は一昨年までのセンター試験同様に大問 2 問。センター試験では「評論」と「小説」がそれぞれ題材となっていましたが、共通テストでは「論理的な文章」「文学的な文章」「実用的な文章」を題材にするとされています。ただし、昨年、「実用的な文章」を題材とする問題は出題されませんでした。今年も出題されなければ今後出題される可能性は下がりますが、今は出題されることを前提に準備していくことを勧めます。ちなみに試行調査では「実用的な文章」として「法律の条文」が使われました。「実用的な文章」を読んで解答していくには教科横断的な力が重要になります。国語の授業はもちろん、国語以外の学びや経験が国語の得点に影響を与えることになるのだと思います。「挑戦者たちへ」を読む（資料も読み込む）ことも共通テストの国語の得点に繋がっているのだと思います（「挑戦者たちへ」は実用的な文章ですから…）。

③英語、リーディングとリスニングの配点が複雑？？

英語の筆記はリーディングと呼ばれるようになり、リスニングと同配点になりました。ただし、配点の比率は各大学が成績利用の際に変更できます。１：１の大学と４：１の大学では大きな違いを生むので自分が受験するであろう大学の比率を各自調べるしかない。

リーディングでは一昨年までのセンター試験で出題された発音、アクセント、語句整序などを単独で問う問題は予定通り出題されませんでした。基本的に読解系の問題ばかりが出題されました。全体的に図表やイラストの分量が増え、複数の情報を基に解答を導く問題が増えました。語数が 1000 語程度増え、量の多さに対応できなかった受験生もいました。共通テストの準備として一昨年までのセンター試験の過去問を解くことは有効な学習方法ですが、英語ではこの（発音、アクセント、語句整序が出題されない）ことを忘れずに学習することが重要です。。

リスニングは大問数やマーク数が大幅に増加し、読み上げられる音声の回数も１回読みと２回読みが混在するようになりました。また、状況を説明する短文を聴き取る問題や講義を聴いてワークシートに概要を整理する問題や、イラストや図表を用いた問題が大幅に

増加し出題形式が多岐にわたりました。

④自分が受験するであろう大学の比率を調べるしかない。

表１を見てください。「自分が受験するであろう大学の比率を各自調べるしかない」という意味がわかりますね。特に１００：１００の大学を受験する人は、リスニングの勉強に時間を割き満点を目指すことになる。ただし、志望大学は変わる可能性もあるし、国公立の人は共通テスト終了後、自己採点して受験大学を変更することも多いので、今２００：５０の大学を受けるつもりでも最終的に１００：１００の大学を受験する可能性もあります。また、私大は何校か受験します。大学によって比率が違うので、結局、比率の違う大学を受けることになるのだと思います。ですから今意識して欲しいのは（１年生でも３年生でも（もちろん２年生も））**リスニング（や４技能）の学習を軽視せず「共通テストのリスニングで満点をとるのだという気持ち」**を忘れないで学習することです。

表１　主要大学共通テスト英語・リーディングとリスニングの配点（2021 年度入試）

国公立大学	リーディング	リスニング
千葉大	１６０	４０
お茶の水女子	１００	１００
電気通信	１５０	５０
東京	１４０	６０
東京医科歯科	１５０	５０
東京外国語	１００	１００
東京学芸	１００	１００
東京工業	１００	１００
東京農工	１３０	７０
一橋	１００	１００
都立大　人文社会	２４０	６０
（前期）経済経営	２００	５０
理　（学部でバラバラ）	１６０	４０
私立		
青山学院	１００	１００
学習院	１００ （経済のみ１６０	１００ ４０）
上智	１００	１００
中央　文・法	２００	５０（併用は 100：100）
総合政策・経済	１００	１００
理工　（学部でバラバラ）	１６０	４０（併用は 120：30）
法政	１２０	３０
明治	１００	１００
立教	１００	１００
早稲田	１００	１００

⑤共通テスト（旧センター試験）は私大入試でも重要度が増す

一昨年まで私大のメイン入試はセンター試験利用入試（現・共通テスト利用入試）ではなくそれぞれの大学が実施する一般選抜でした。ですから私大だけを受験する場合、センター試験（現・共通テスト）を軽視して勉強する人もいました。特に慶応義塾か上智が第一志望の人は両大学がセンター試験（現・共通テスト）を利用する入試を実施していなかったので、その傾向が強かったのです（ちなみに早稲田は実施していたが基本的に国公立型（５教科７科目型）、私大のみを受験する人用の早稲田のセンター試験利用入試（現・共通テスト利用入試）はなかった）。

しかし昨年から上智が共通テスト利用入試を始めたこと（慶応は相変わらず実施しない）、青山学院が共通テスト併用入試（共通テストと大学独自の試験を両方受験する入試）をメイン入試にしたこと、そして立教のメイン入試で大学独自の英語の試験がなくなり（英語は英語外部検定のスコアを点数化したものと共通テストの英語の得点のどちらか高得点を採用する方式になる）（なお文学部の一部日程のみ英語の試験が維持されている）、立教を目指す多くの受験生が共通テスト英語の高得点を目指すことになりました。そして学習院も上智同様に昨年から共通テスト利用入試を始めました。私大を目指す人にも共通テストの重要度が増しているのです。

ただし、大きな入試変更をしない私大が圧倒的に多いことを付け加えておきます。明治、法政、中央、そして東洋など多くの私大は共通テストを利用**しない**入試がメイン入試です。

⑥国公立を目指す人は共通テストと個別試験の比率も重要だが、とにかく共通テストを成功させる。

国公立は共通テストの得点と大学独自の個別試験（２次試験）の得点の合計で合否判定されます。東大や一橋など難関国立はその比率が１：５程度で共通テストの比率が低いのですが、難しくはない共通テストで高得点がとれないようでは難関国立に受かるわけがありません。標準的な国公立は１：１、そして地方国公立は３（５）：１程度と共通テストの配点が高い。共通テストで成功すれば合格の可能性が高いということです。共通テストは教科書の範囲からの出題なので日野台生なら高得点出来るはず。授業を大事にしてください。